

企業の垣根をこえた木製品開発の試み ～くしろ木づなプロジェクト「商品開発研究会」～

釧路工業技術センター 瀧本 文



釧路市では、カラマツをはじめとする釧路の木材を利用した製品を開発する「くしろ木づなプロジェクト」が進められています。その一環として、木材関連企業の若手社員・職人で構成する「商品開発研究会」をフィールドとする、企業の枠を越えた新しい木製品開発が取り組まれています。地域の木製品業界を全体的に底上げする試みと言えます。そこで、この商品開発研究会を事務局として支える釧路工業技術センター（以下、技術センター）の瀧本氏にお話を伺いました。なお、「商品開発研究会」の母体となる「くしろ木づなプロジェクト」については当誌でも紹介^{1,2)}していますので参考にしていただければと思います。

（文責：普及協会・菊地）

■商品企画研究会のはじまり

くしろ木づなプロジェクトでは発足当初より、木材利用促進の一環として木製品の開発を行ってきました。そこでは、技術センターが製品開発の取り組みを支え、道総研ものづくり支援センターの研究者を招いてデザイン性を高めるなどの努力を積み重ね、“おもしろい”，と評価される商品を生み出してきました。一方、開発過程における地域企業の参画が十分とは言えない例もあり、せっかく開発できた良質な製品が商品として販売するところまで進まないことがありました。また、地域企業が自前の製品開発力を高めていくことへの期待も寄せられていました。そこで、2020年、くしろ木づなプロジェクトの中に「商品企画研究会」を設け、地域の木材関連企業の社員・職人が、製品開発のはじまりから出口まで関わっていく取り組みがスタートしました。

研究会の参画メンバーは、かねてより技術センターと木製品開発についての接点を持っていた企業の中から、若い方を育てていく視点で勧誘を行い、集まっていただきました。現在、研究会に参画しているメンバーの所属企業・団体は表のとおりです。若い人、という目論見どおり、30代前半から40代半ばまでの方々がメンバーになっています。

表 商品開発研究会の構成員

	企業・団体
研究会メンバー	丸善木材株式会社
	得地ファニチャ工業株式会社
	玉垣木工株式会社
	株式会社長谷川建築設計事務所
	有限会社熊の家藤戸
	釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz
運営	釧路市
	公益財団法人釧路根室圏産業技術振興センター

◆商品企画研究会で開発した木製品

くしろ木づなプロジェクトは、釧路地域のカラマツを建築物や牛舎で使うことを一番の目的として事業を進めています。もちろん、トドマツやアカエゾマツを対象としない、ということではありませんが、“釧路はカラマツの利用に取り組んでいる”，というイメージは大切にしています。このため、商品企画研究会でもまずはカラマツを対象として、建築物以外の分野で市民の方々にアピールする製品を考えました。そうして絞り込んだのが、身近なクラフトそしてゲームの分野の製品です。

2022年2月までに16点の木製品を試作しました³⁾。これらは、道民森づくりの集い2021（2021年11月）、釧路工業技術センター展示会（2022年2月）、釧路工業技術センター成果報告会（2022年7月）などでの紹介を経て、一部ではありますが商品として販売されるに至っています。

商品の一例として、釧路地域の木製品を紹介したパンフレット「くしろの木製品」に掲載された6点を図に示します⁴⁾。なお、製品化されはしましたが、現時点では全体的に十分な売上げにつながっているとは言えないところに、まだまだ、もっともっと、という感じも抱えています。

砲型スマホスピーカー「かおん」



砲型
楽



カラマツを使用し、砲(かんな)をモチーフにしたスマートフォンスピーカーです。電源が差らず、置くだけで音の響きが深く、大きくなります。

大: L320×W102×H90
小: L220×W960×H75
大 8,800 円(税込)
小 7,150 円(税込)

ポータブルミニテーブル「端木台(ばきた)」



パキッと折ってコンパクトに収納できるミニテーブルです。脚はカラマツ化粧合板・アクリル板・メラミン化粧板で、天板はカラマツ・トドマツ・広葉樹等、いろいろな組み合わせが可能です。

W300×D210×H100

3,850 円(税込)～



くしろカラマツカーリング



2人対戦型のゲームで、ストーンを交互にゴムで飛ばし、カーリングと同様に、最後に円の中心に近いストーンで競います。

ストーンを引っ張ってゴムで飛ばすので、力が弱い高齢者でも若者と同じ条件で対戦できます。

W430×D300×H470

価格は御相談ください

上記3点
得地ファニチャ工業(株)
北海道釧路郡釧路町中央3-20-1
TEL: 0154-40-2261

木づなえんぴつ



釧路産のカラマツを使用し、一本ずつ手作りで作成しています。手になじむように、一般的な鉛筆のサイズよりも一回り大きめに作ってあります。塗装していないため、木の感触と軽さを感じられます。紙やすりを同封していますので、御自身の手で磨いてすべすべに仕上げることができます。

完成品 300 円(税込)

キット 200 円(税込)

専用鉛筆削り 300 円(税込)

まちまちえんぴつ

※注文・問合せは

ウェブサイトをご参照ください。



カラクシー



カラマツの木柱を10本並べて、5歩離れた場所から同じサイズの木柱を投げて、倒した点数を競うゲームです。

倒れる時のカラーンという音が気持ちよく、木柱はフレームを越えることに違くなるので、だんだん難しくなっていくのもポイントです。

屋外用のフルサイズと、屋内用のミニサイズがあります。

アルコールスタンド



釧路産の小丸太をくり抜き、ポンプ式のアルコールボトルを入れました。足元の板を踏むと、ノズルからアルコールが噴霧される仕組みになっています。

噴霧されるアルコールに精油を添加すると、消毒した手に木の香りが心地良く残ります。

上記2点につきましては、
釧路工業技術センター(担当: 瀧本)まで御連絡ください。
TEL: 0154-55-5121

◆これから

商品企画研究会の運営を進める中で、具体的な物づくりをはじめの前に、いい物を見て、なにか感じる経験を重ねることが必要で、そのためには勉強する機会をつくるのが大事なかもしれない、と考えるときがあります。また、くしろ木づなプロジェクトの母体となる釧路森林資源活用円卓会議からも、経験の乏しい者がいきなりデザインしても売れる製品を開発するのは難しいから、もっときちんとやらなくてはいけない、とのコメントももらっています。参加メンバーのスタンスも、経験を積むため、自社で扱える製品を開発するため、など多様です。

私自身も、技術センターが先走っては空回りするだけではないかと自問することがあります。ただ、試作品の製作、展示会への出展などへの取り組みを積み重ねてきた結果、少しずつではありますが成果が出てきているとは感じています。たとえば、道民森づくりの集い2022(2022年10月)で展示したカラマツカーリング、カラマツシューティングは子どもたちの人気を集めていました。このような目に見える成果が研究会メンバーへの刺激として返ってきています。そこに期待を持っています。

これからも、地域の木材を地域で加工し、地域の企業が製品として出す、そしてそれが生活の中で使われていく、という流れを増やし、強めていくために、商品開発研究会、そしてくしろ木づなプロジェクトに取り組んでいきたいと考えています。

◆参考資料

- 1) 釧路総合振興局森林室普及課: 川上, 川下一丸と
なった地域材の活用～釧路森林資源活用円卓会議
の取組～, ウッディエイジ, 2013年11月号, p.5A
(2013).
- 2) 板垣達也: 釧路森林資源活用円卓会議活動報告～
くしろ木づなプロジェクトのこれまでとこれから
～, ウッディエイジ, 2016年6月号, pp.3A～7A
(2016).
- 3) くしろの地域材を使った新製品の展示会を開催:
釧路森林資源活用円卓会議 プレスリリース令和4年
3月3日, [https://www.city.kushiro.lg.jp/_res/projects/
default_project/_page_/001/006/337/000187528.pdf](https://www.city.kushiro.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/337/000187528.pdf).
- 4) くしろの木製品: 釧路森林資源活用円卓会議発行,
2022年3月.

図 「くしろの木製品」に掲載された
商品開発研究会の製品